

第 16 回 AAAP 大会参加報告

広島大学大学院生物圏科学研究科 生物資源科学専攻

三浦千佳

去る 2014 年 11 月 10～14 日にインドネシア・ジョグジャカルタ Gadjah Mada University で開催された第 16 回 AAAP 大会に参加し、“Messenger RNA expression of innate immune factors in bovine mammary epithelial cells cultured with estradiol”という題目で口頭発表を行いましたので、その模様を報告させていただきます。

【発表の概要】

乳房炎は乳牛に多発する病気で、乳頭口から細菌が侵入することで発症します。ミルクを合成する乳腺上皮細胞は抗菌因子を合成・分泌することが知られており、乳腺の免疫機能に重要な役割を果たしています。この抗菌因子の発現に性ステロイドホルモンが影響しているという報告がありますが、詳細は明らかにされていません。そこで本実験では、乳牛のミルクから採取した培養ウシ乳腺上皮細胞(MEC)を用いて抗菌因子発現に及ぼす estradiol (E₂) の影響について調べました。採取したミルクを遠心分離して MEC を回収し、細胞が増殖するまで培養した後、培地に熱処理 *E. coli* あるいは E₂ を添加して濃度依存的および時間依存的な抗菌因子 (LAP、TAP) の発現を半定量 PCR を用いて調べました。その結果、ミルク由来の MEC において熱処理 *E. coli* 刺激は抗菌因子の mRNA 発現を増加させることが明らかとなり、さらにその刺激は E₂ の影響で増強される可能性が示唆されました。



【発表の状況】

国際学会での英語の口頭発表は初めてであり、とても緊張しましたが、聞く人が分かりやすいようにはっきりゆっくりと丁寧発表することを心掛けました。そのおかげで分かりやすい良い発表だったとの評価をいただき、大変光栄でした。質問に対しては拙い英語ながらも伝えようと努力をいたしました。未熟さが目立つ結果となりました。しかし今回の学会参加を糧に今後も努力を怠らず精進していきたいと思っております。

【大会の感想】

初めての国際学会での口頭発表は自分自身にとってとても良い刺激となりました。特に、会場では現地の方が積極的に話しかけて下さったので英語でのコミュニケーションを取る機会も多く、研究意欲だけではなく、国際交流のモチベーション向上にもつながりました。最後に、本大会の参加にあたりプレゼンテーションアワードを授与して下さった日本畜産学会の関係者の皆様、大会中にお世話になった諸先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

